

Japan Society of Civil Engineers
International Activities Center

巻頭言

第3回国連防災世界会議における 土木学会の活動



公益社団法人 土木学会 会長 磯部 雅彦

本年（2015年）3月14日から18日まで、仙台において国連防災世界会議が行われた。1990年からの国連防災の10年（IDNDR）をきっかけとして、第1回は1994年に横浜で、第2回は2005年に神戸で行われ、今回が第3回になる。災害ハザードが高く、防災に苦勞を積み重ねてきた日本が、いずれもホスト国としての貢献を果たしてきた。今回は、これまでの「兵庫行動枠組み」の後継としての「仙台防災枠組み2015-2030」と共に、「仙台宣言」が採択された。

この中で土木学会は東北支部の真野明先生（東北大学）を実行委員長として、公開シンポジウム『『あの日』から、土木技術者がしたこと』を3月16日に開催した。東日本大震災に対する各団体の対応を紹介すると共に、がれき処理の過程を詳細に報告し、最後に災害マネジメント力育成のプログラムの紹介があった。特にがれき処理については、定められた期限内に膨大ながれき処理を完成させるのに貢献した105団体に対して、土木学会特別表彰を会長から授与した。土木学会としては、このように広範な対象者に対して授賞するのは初めてのことで

ある。しかし、公共的な事業に係わる膨大な数の関係者に対する敬意を表するものとして、土木学会ならではの顕彰と言える。

この公開シンポジウムに先立つ3月15日には、国土交通省と土木学会の主催による東日本大震災総合フォーラム「激甚化する巨大災害にどう立ち向かうか」が行われた。国連の防災と水事務総長特使のハン・スンズ氏と関西大学の河田恵昭教授の基調講演に続き、日本、フィリピン、トルコ、アメリカ、オランダからの代表者によるパネルディスカッションが行われ、土木学会長がコーディネータを務めた。また、3月16日には本体会議におけるワーキングセッション「潜在している災害リスク要因」にパネリストとして土木学会長が参加した。これらを通じ、最大クラスのハザードに対してはあらゆる手段を通じて人命を守り、それよりも発生頻度が高く、レベルの低いハザードに対しては、ハード施設を中心として人命と財産を守るという原則が、広く世界に適応可能であることを示した。



パネルディスカッションに参加する磯部会長（左から2番目）



パネル展示の様子

アジア土木学協会連合協議会（ACECC）第28回理事会参加報告：第8回アジア土木技術国際会議日本開催の決定

2015年3月27日～29日、第28回アジア土木学協会連合協議会(ACECC)理事会がバングラディッシュ・ダッカにて開催された。ACECCの主な活動内容については、土木学会誌第100巻第5号128-129ページを参照されたい。

本会議では、日本からは主に下記2点について提案・報告等を行った。

- ①第8回アジア土木技術国際会議（8th CECAR）招致立候補プレゼンテーション
- ②日本が主導する新たなTCの設立提案

8th CECARは2019年に開催予定である。同年は東京オリンピック・パラリンピックの前年であり、直前の準備状況を観られる絶好のタイミングであるため、国内外の参加者にとっても魅力的な年と言える。また、東日本大震災から8年を経過し、強靱かつしなやかになった日本の姿をみせることはアジアの国々にとって有意義であると考えた。

立候補プレゼンテーションは、廣瀬次期学会長による挨拶に始まり、日下部 ACECC 日本代表が、日本が目指す CECAR について発表された。プレゼンテーションでは、ACECC はアジアの社会資本整備の促進を実現すべく、各国の Decision Maker や金融機関との協働関係を構築するユニークな組織であり、CEACR はそのヴィジョンを発信・共有するユニークな国際会議とすべきであることが力強く主張された。また、その実現のために日本は産官学の総力を挙げた実施体制を整え、参加者の立場や世代に幅広く対応するプログラムの実現を目指すことを約束した。上記メッセージを通し、日本が魅力的な候補であることが受け入れられ 2019 年の 8th CECAR 日本開催が承認された。



廣瀬次期会長（中央）による冒頭挨拶

土木学会では、アジア地域での防災に関する取組みについて、これまで3回にわたって円卓会議を開催し、議論を主導している（RTM on Disaster Management (Asian Board Meeting)）。この取組みについては、国連防災世界会議や「日本防災プラットフォーム」に対する評価が高まる中、日本が主導することが引き続き期待されている。



日下部 ACECC 代表（右）による立候補プレゼンテーション

今回の理事会においては、山口栄輝委員長（九州工業大学）が本取組みを ACECC の新たな TC 活動の一環として進めることを提案し、承認された。次回の理事会においては、Chair の選任や活動方針等について報告する予定である。

なお、次回第29回理事会は、2015年10月に韓国の群山にて開催予定となっている。



参加者全体写真

【記 ACECC 担当委員会 幹事長 中野雅章（日本工営）】

平成 26 年度土木学会ジョイントセミナー報告（海岸工学委員会）JSCE-PICE 合同セミナー「台風ハイヤンによる災害調査と分析，両国における今後の海岸防災における課題」

2013 年台風 30 号(ハイヤン)の来襲に伴うフィリピンにおける高潮・高波災害を受け、土木学会はフィリピン土木学会(PICE : Philippine Institute of Civil Engineers)との合同調査を実施し、被害の全容把握に必要な多くの貴重な情報を得ることができた。その結果として、最も被害が大きかったレイテ島、サマル島では、浸水高や氾濫域に局地的な分布が見られ、一部の地域では吸い上げや吹き寄せによる高潮に加え、高波による氾濫、さらに、高潮と高波が重なったことによる被害の増大があったことなどが分かってきた。さらに、特に被害が大きかった東サマルやレイテは台風の常襲地帯であるにも関わらず、地形的な特性から過去長期にわたって本災害ほどの浸水被害を受けてこなかったことから、沿岸部の住民の意識が低く、警報を認識していたにもかかわらず多くの住民が避難せず、被害を拡大させたことなども明らかになった。



講演の様子

本合同セミナーは平成 26 年 11 月 28 日にケソンにおいて実施した。セミナーでは JSCE および PICE から、それぞれ 7 名ずつ合計 14 名の講演者が登壇し、合同調査結果の詳細、また実験や数値解析に基づく被災メカニズムの検証、復興計画、また日本における高潮被災事例の紹介や防災対策、気候変動を踏まえた今後の予測とその適応策などに関する話題提供を行い、知識を共有するとともに両国の海岸防災に関する理解を深めた。合同セミナーには被災地における復旧・復興において中心的な役割を担った DPWH(Department of Public Works and Highways)の技術者を中心に 84 名が参加し、話題提供の後には今後の海岸防災にむけた課題やそのための共同研究の方向性について議論を深めた。



Eric Cruz 教授による講演

合同セミナーで共有した知見の一部は、2015 年末に発刊予定の Coastal Engineering Journal、Special Issue における論文掲載という形でも、成果として広く公開していく予定である。



セミナー講演者の集合写真

●合同セミナープログラムは[コチラ](#)（英語のみ）

【記 海岸工学委員会 田島芳満（東京大学）】

イベントカレンダー

- 2015年6月12日～13日
パキスタン土木学会（IEP）年次大会および土木技術者会議
（パキスタン・カラチ）
- 2015年6月18日～20日
モンゴル土木学会（MACE）年次大会
（モンゴル・ウランバートル）
- 2015年7月8日～10日
タイ工学会（EIT）土木会議（タイ・パタヤ）

お知らせ

- 土木学会誌の特集記事の概要をJSCEのWebsite（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No. 41が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- 土木学会創立100周年記念切手が発行されました。
<http://jsce100.com/node/250>
- 協定学会European Council of Civil Engineers（ECCE）より、書籍「Footbridges- Small is beautiful」が発行されました。日本の歩道橋も錦帯橋を始め17点が紹介されています。
<http://www.eccengineers.eu/>

購読申込み

国際センター通信購読の申し込みは以下のURLよりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

〈国際センター通信配信希望者登録フォーム〉

- ・日本語版
<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版
<http://www.jsce-int.org/node/150>

掲載記事募集します！

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

〈記事投稿の詳細はコチラ〉

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>

編集後記

先日、久しぶりに子供を連れて近くの公園へ行くと、止める間もなく、靴を脱いで水辺へ走って行きました。まだ5月だというのに... 夏にはまだ間がありそうですが、彼らにとってはすでに始まっているようです。良い夏を！（S.O.）

〈ご意見・ご質問〉 JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。